

「音の記憶」

音の記憶は不思議だと感じる。自然の中で聞く音、川の流ればせせらぎから始まり、激流や滝の音まで様々ある。その音に呼応して様々な記憶がよみがえる。せせらぎの音を聞いて夏の涼しさと水のおおいを想い出し、川辺で石切の競争をした友人まで思い浮かぶ。また、連想して森の中で緑に包まれたさわやかな香り。夕立の時のあの匂い。自分の経験した体感や思い出が頭の中でひらがり、懐かしさや時には夕立の雷の恐怖まで想像させる。

音は自然の中ばかりでなく、音楽や仕事場で聞く人の話し声、器械の音やテレビから流れてくる。特に音楽は聞いたその時の光景から感情まで一瞬にして過去に引き戻される不思議を感じる。では、病院ではどうだろう。病院で掛けられる「どうなさいましたか?」「お大事に」の

言葉は、辛くてやつの思いで病院の門をくぐった時に感じた安心の気持ちを想い出させる。様々な言葉の意味と声を掛ける人の優しい声は、受ける側の安らぎをもたらす魔法の音。大切にしなければならぬと改めて思う。

音は、幼いころからの想い出と共に無限に想像を膨らますことができるすばらしい記憶の源であり、これからは生きていく希望の光である。



イラスト/森田 宏子

Contents

特集 奏①
信州国際音楽村
豊かな自然と人が育むメロディを奏でる
2.1

特集 奏②
信州・丸子太鼓「鼓城・kojyou」
人と地域を結び響きわたり、心揺さぶり奏でる太鼓の音
4.3

特集 奏③
ロビーコンサート in 丸子中央病院
5

トピックス
Marukko TOPICS
6





第一線で活躍されている音楽家の演奏会だけでなく、地元の愛好家の皆さんが企画した発

表会や自主公演など、いわゆる参加型の催事も数多くあります。自分自身で何かを「やってみたい」という方にお越しいただけるのも私たちの喜びです。地域の皆様楽しんでいただくことはもちろん、県外の方も含め、この地域が交流の拠点となるために何ができるかも常に考えています。近年は研修施設や、宿泊施設でセミナーや合宿を企画しており、毎年訪れる方が増えております。四季を通じての公園や花畑の管理を含めると、我々の仕事はまるでペンションの運営者のようですね。

音楽、文化を通していかに地域貢献するかという役割も大切ですが、地域の先人たちが支えてこられた長年に渡る

音楽村の活動を次の世代にいかにか橋渡しをしていくか、ということも私たちに与えられた大きな役割だと思っています。その時に私がイメージするのは「大玉送り」です。地域の学校等に当施設を利用していただくことも多いですが、その際は、将来を担う子供たちに大玉を送ることをイメージしながらお話をしています。



一般財団法人 信州国際音楽村
〒386-0411
長野県上田市生田2937-1
TEL : 0268-42-3436
FAX : 0268-42-3948

信

州国際音楽村には国内外の音楽家や芸術家の方が来館

されますが、「ここは心が落ち着く」という感想をよくいただきます。広大な高台の花畑



表会や自主公演など、いわゆる参加型の催事も数多くあります。自分自身で何かを「やってみたい」という方にお越しいただけるのも私たちの喜びです。

音楽村の活動を次の世代にいかにか橋渡しをしていくか、ということも私たちに与えられた大きな役割だと思っています。

生活がより豊かに潤いに満ちたものになる——そう実感

まるで別世界のような環境が大きな魅力で、ここを心の故郷のように想っていただけのこともあり、うれしく思っています。なお、花畑の手入れはボランティアの方々支援をいただいております。

地域の皆様楽しんでいただくことはもちろん、県外の方も含め、この地域が交流の拠点となるために何ができるかも常に考えています。近年は研修施設や、宿泊施設でセミナーや合宿を企画しており、毎年訪れる方が増えております。四季を通じての公園や花畑の管理を含めると、我々の仕事はまるでペンションの運営者のようですね。

この地域は大河ドラマ『真田丸』の効果もあり文化都市、歴史的都市として知られるようになりましたが、実は最大の魅力は『生活都市』であることだと考えています。これほど住みやすい場所はそうはありませぬ。生活都市としての魅力に信州国際音楽村での能動的な体験が付加されて、

生活しやすさには医療・福祉の存在は欠かせません。その意味で、丸子中央病院にはこの地域でも大きな役割を担われることを期待します。

PROFILE

信州国際音楽村 館長
南村 昭夫

上田市生まれ。
平成17年4月、
信州国際音楽村館長に就任。



信州国際音楽村青少年合唱団は施設開設初期の1986年に設立。日本の未来を担う子供たちの「ひとづくり」の一環として彌勒忠史氏や、声楽家の玉崎真弓氏ら一流の音楽家が指導する。歌のレッスンのみならず、国語の授業にもなりそうな、講師の変幻自在な言葉を用いたレッスンは魅力的。



信州国際音楽村

豊かな自然と人が育むメロディを奏でる



信州国際音楽村は、来年、設立から30周年を迎えます。中核施設「ホールこだま」は純木造建築で、とてもぬくもりのある空間です。信州国際音楽村は「子供たちが豊かな自然環境の中で、人間性を高める教育が受けられるふるさと作り」に一步でも貢献できればとの思いから誕生しました。施設の運営理念はもちろん、木の感触を生かしたホールも、今なお色あせることなく独自性を保っています。その魅力を信州国際音楽村の南村昭夫館長にお聞きしました。

信州・丸子太鼓 「鼓城 -kojyou」



上

田市丸子地域は、木曾義仲が地元の豪族であった依田

氏の勢力を得て、京へ向け平家討伐の兵を挙げた地とされています。昭和43年太鼓組曲「木曾義仲挙兵太鼓」が創作され、翌年に保存と継承を目的とした丸子太鼓保存会が設立されました。平成16年には、太鼓打ち手チームを「丸子太鼓 鼓城(kojyou)」と改名し、このメンバーが和太鼓から地域活性化に向けた新たな取り組みを始めました。

「師匠である邦楽演出家、吉村城太郎氏のご助言があり、和太鼓合宿の受け入れを4年前から始めました。」と語るのは打頭であり、旅館鹿鳴荘を営む宮崎涼さん。

現在は、鹿鳴荘、ホテルかめや、齊北荘の3つの旅館において、高校生・大学生・一般の幅広い合宿受け入れを行っています。



キャッチコピーは、「桴一本で合宿にお越しいただけます!!」

種類豊富な和太鼓の貸し出しが可能であり、合宿費用を抑えたい方には、厨房もあるので、昼食、夕食は自炊も可能。合宿中の食事の有無、費用のご相談には真摯かつ柔軟に対応してもらえます。なにより、太鼓の打ち手メンバーならではのきめ細やかなおもてなしが魅力です。練習でかいた汗は、古くから湯治場とされてきた鹿教湯温泉で洗い流して身も心もリフレッシュでき、都市部から来た合宿生にとっては最高の環境です。合宿期間中には「丸子太鼓

鼓城(kojyou)」とのセッションや交流会を行い、双方で刺激を受けモチベーションを高めているそうです。

「太鼓は音も大きく、防音施設があっても、どうしても外に漏れてしまうため、周辺への配慮が必要になります。都会の学生など、練習道場を探すことは大変なことです。ここ鹿教湯温泉交流センターでは、広々とした冷暖房完備のホールで存分に練習に集中していただけたと思います。」
それどころか、「ドン」という和太鼓の音色を聴いた宿泊客や近隣病院の入院患者さんが見学に来て交流することもしばしばとのこと。太鼓の音だけでも体中に響きわたる心にも残りますが、実際に見学すると打ち手の姿は勇ましくもあり、楽しげでもあり、自然とその世界にひきこまれます。日本の伝統芸能である和太鼓をととした活動は、地域と都市部の距離を縮めてゆきます。

人と地域を結び響きわたり、心揺さぶり奏でる太鼓の音。

上田市鹿教湯温泉を拠点とする丸子太鼓保存会。今までの枠にとらわれず、地域も年代も越えバトンが受け継がれてゆきます。



PROFILE

丸子太鼓 鼓城 打頭
宮崎 涼

平成16年、信州・丸子太鼓鼓城-kojyouに入団。
平成28年6月、打頭に就任。
鹿教湯温泉旅館 鹿鳴荘専務として、合宿の受入にも協力している。

●お問い合わせ先…
鹿教湯温泉旅館
鹿鳴荘
TEL : 0268-44-2236

小県医師会

熊本地震被災地へ JMAT(日本医師会災害医療チーム)を派遣

日本医師会からの要請により長野県医師会を通じ小県医師会は、丸子中央病院職員(医師・看護師・薬剤師・リハビリ・事務職員)による2チーム9名を熊本県上益城郡益城町へ派遣いたしました。

避難所に訪問診療すること、罹災証明の発行を行っている大規模施設「グランメッセ熊本」にて救護所活動を行うことが主な任務でした。

派遣された5月21日~29日は連日真夏日を記録しました。特に「グランメッセ熊本」では罹災証明の受付に毎日600名超の方が訪れていましたが、待合場所はアスファルトの上にテントを立てたもので、湿度の高さと照り返しにより極めて熱中症になりやすい環境でした。また、広大な駐車場では、木陰にテントを張って生活する方や、自動車内で一日中過ごされる方もおり、こちらの皆様の熱中症対策も必要でした。そこで、救護活動のほかに、30分ごとにテント内の皆様への給水と、1日2回ずつ巡回活動を行いました。

熊本の皆さまの温かさにもふれました。水を保冷するためのクーラーボックスを購入するために訪れたホームセンターでは天井が落下する被害を受けていましたが、こちらが医療支援者と分かると被災している店内で物資を探してくださいました。

クーラーボックスで保冷された水は、グランメッセの皆さまに大いに喜ばれました。

今回被災地に入ったのは、地震発生から40日後が経過してからであり、このような生活支援が医療チームにとっても重要な課題であることを再認識しました。今後も、災害発生に備え、医師・看護師だけでなく、薬剤師、リハビリ療法士など多職種の職員を活用し、病院内での情報共有と連携体制を充実していくことの大切さを感じました。

被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。



●発行
特定医療法人 丸山会 丸子中央病院
経営企画課 広報係 Marukko(まるっこ)制作委員会
〒386-0405 長野県上田市丸中丸子1771-1

●編集・進行
北澤 淳一/西沢 美恵子(丸子中央病院)

●アートディレクター
五木田 忠之(MOKUBA.CO.,LTD.)

●デザイン
MOKUBA.CO.,LTD.

●お問い合わせは…
丸子中央病院 経営企画課 広報係
Marukko(まるっこ)制作委員会まで
TEL.0268-42-1111
月曜日から金曜日、10時~17時
(祝日・休日・年末年始を除く)



丸子太鼓 鼓城さん取材中。
見学者の方と親しく話されている
打頭の宮崎さんが印象的でした。

編集後記

丸子中央病院の理念は、「地域のしあわせ創りへの貢献」です。患者さんはもちろん、どんな人でも「もう一度、ここへ立ち寄りたい」と思っていたら開かれた病院を目指しています。当院の1階ロビーにグランドピアノが設置されているのをご存じでしょうか？日頃から、患者さんに癒しを感じていただけるようボランティアさんによるピアノ演奏をお楽しみいただいております。演奏日時は、当院1階ロビー及びホームページにて掲載しております。是非チェックしてみてください。

会場全体に響き渡る 声量に圧倒されます!!

Lobby Concert in Maruko Central Hospital

ロビーコンサート

in 丸子中央病院

丸子地域で音の持つ魅力を伝え、奏でる人を追った今号のmarukkoですが、丸子中央病院でも一流の音楽家の皆さまが素晴らしい旋律を披露されました。その様子をレポートします。

「大野和士のこころふれあいコンサート2016」

世界的な指揮者で、現在フランス国立リヨン歌劇場首席指揮者ならびに東京都交響楽団音楽監督を務め、2018年より新国立劇場次期芸術監督にも内定している大野和士が来院され、コンサートが開催されました。

普段、本物の音楽に触れる機会が少ない方々にも、気軽に音楽と触れ合って頂きたいという思いから、2008年より全国の病院・高齢者施設等でボランティアコンサート「こころふれあいコンサート」を開催しており、今年は丸子中央病院が選ばれました。

この日は入院されている患者さん中心に200名ほどの皆様が集まり、大野さんのピアノと4名の声楽家による美しい旋律に酔いしれました。



「山の日記念 ロビーコンサート」

2016年より日本の国民の祝日として制定された「山の日」。この日を記念したコンサートが開催されました。

ソプラノの白石佐和子さん、テノール澤崎一了さん、ピアノの築田佳奈さんの3名の皆様による共演は今年で3回目を迎えました。

およそ300名の皆さまが会場を訪れ「日本の名曲」を多く盛り込んだ音楽を堪能しました。

